

避難行動判定フロー

必ず取り組みましょう

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

あなたがとるべき避難行動は？

本書P32～P55のハザードマップ(※)で自分の家の場所を確認しましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、必要に応じて避難も検討してください。

はい

避難方法は立退き避難が適切ですか？

〔立退き避難が適切か、屋内安全確保が適切か、右の例を参考にあらかじめ検討しておきましょう。〕

いいえ

屋内安全確保を行いましょ。

はい

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)。

高齢者等避難が出たら、市が指定する避難所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)。

避難指示が出たら、市が指定する避難所に避難しましょう。

《屋内安全確保が適当な例》

①想定されている浸水深よりも高い位置にいる場合

ただし、洪水により家屋が倒壊・崩落してしまうおそれの高い区域(家屋倒壊等氾濫想定区域等)に指定されている場合は、浸水深に関わらず屋内安全確保は危険とされています。

②土砂災害警戒区域に指定されているが、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合

③台風等のピーク(最も風雨が強い時間帯)等になった場合
0.5m程度の浸水でも移動時(徒歩、車ともに)に流される危険があります。また土砂災害も移動中に被災した場合は、屋内にいるよりも命の危険性が非常に高まります。立退き避難をする場合は、早めの避難を心がけましょう。

参考 危険な浸水深の目安

- 1階の場合：0.5m以上の浸水深の場合は危険(1階の床面高さが低い場合は、0.5m未満でも要注意)
- 2階の場合：3.0m以上の浸水深の場合は危険